

# 多様なニーズへの支援が当たり前前の教育に向けた実践 ～特別でない特別支援教育～

# 戸田市教育委員会のビジョン

課題：ベテラン教師の**2K（経験・勘）**により強くリードされる



教育の原点である**特別支援教育こそ、新しい2K（科学・根拠）**の導入を



特別な教育的支援を必要とする児童生徒が在籍する全ての学校における特別支援教育を推進するため、「**戸田市特別支援教育推進計画**」を策定

**「特別でない、特別支援教育」の実現**  
—多様なニーズへの支援が当たり前である教育へ—

戸田市特別支援教育推進計画より

- I. 教員の資質向上による指導の充実
- II. 「必要な時に」、「必要な場で」学べる環境整備
- III. 関係機関との連携

# 戸田市 特別支援教育推進計画

令和4年3月  
戸田市教育委員会



市HPで全文公開しています

## はじめに

平成19年4月、障害のある全ての幼児児童生徒の教育の一層の充実を図るため、特別支援教育が法的に位置付けられた改正学校教育法が施行されました。特別支援教育は、「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」とされ、発達障害も含めて、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されることが示されました。

こうした中で、戸田市教育委員会では、「特別支援教育は教育の原点である」という信念のもと、第4次戸田市教育振興計画に「多様性を尊重し、全ての子供たちが力を発揮できるような誰一人取り残さない学びの保障」を方針として掲げています。多様なニーズに丁寧に対応し、きめ細やかな支援を行うことで、障害の有無に関わらず全ての児童生徒が共に成長していく姿の実現を目指します。

今回、全ての学校における特別支援教育を推進するために「戸田市特別支援教育推進計画」を策定しました。本計画を戸田市の特別支援教育の教育環境整備の基盤とし、その推進に寄与できるよう、あわせて、「特別支援教育」という言葉を使う必要がなくなるくらい、「多様なニーズに応じた支援が当たり前の教育」に向け、計画を推進してまいります。

令和4年3月

戸田市教育委員会

# インクルーシブ教育システムの構築に向けた施策

## 個別的な支援が必要な児童生徒への支援

- ・ 学習指導要領に記載の配慮事項の活用
- ・ 専門性のある人材の活用
- ・ 福祉機関との連携
- ・ 多様な学びの場の整備
- ・ 支援籍学習の推進
- ・ アセスメントに基づく「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成

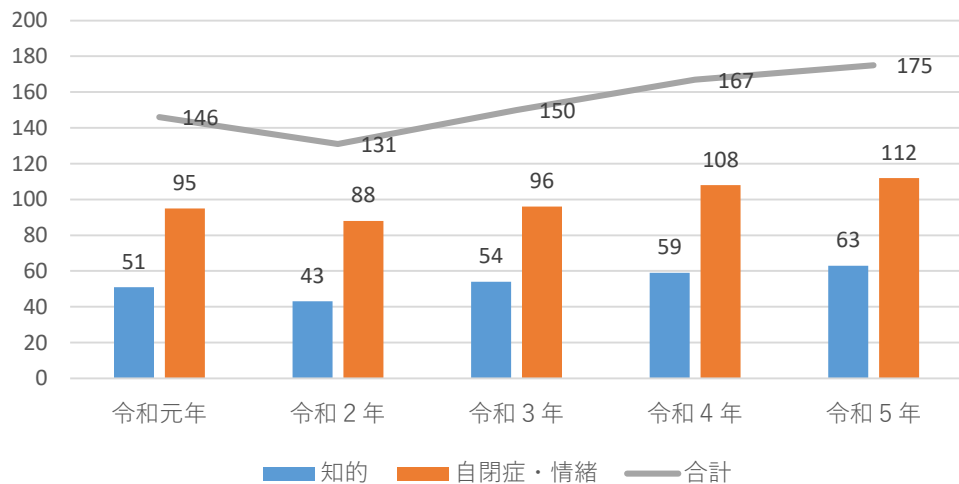
## 全ての児童生徒への支援

- ・ 応用行動分析に基づくアプローチ
- ・ 学級雰囲気チェックリストの作成
- ・ 「子育て学習会」（ペアレントトレーニング）の実施
- ・ スクールワイドPBSの導入
- ・ RTIミーティングの実施
- ・ 効果的な教材の活用

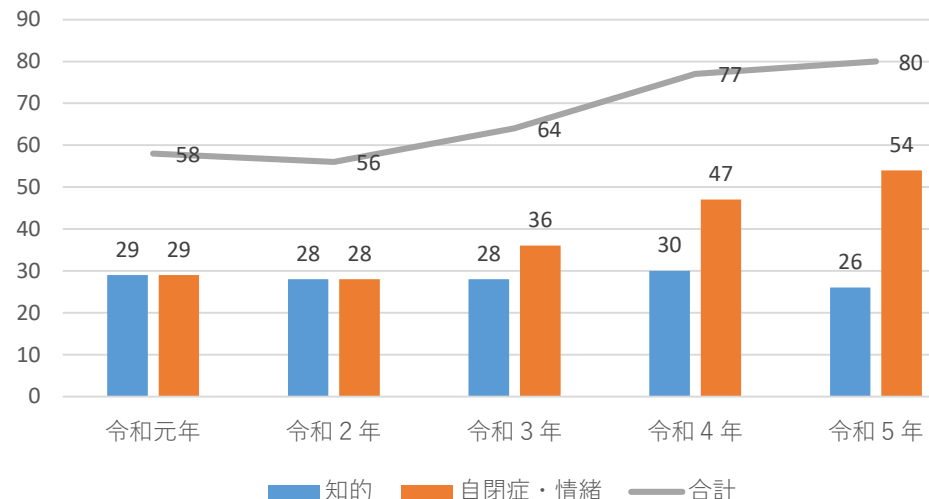
# 特別支援学級・通級指導教室児童生徒数の推移

## <特別支援学級>

(人) 小学校 特別支援学級児童数

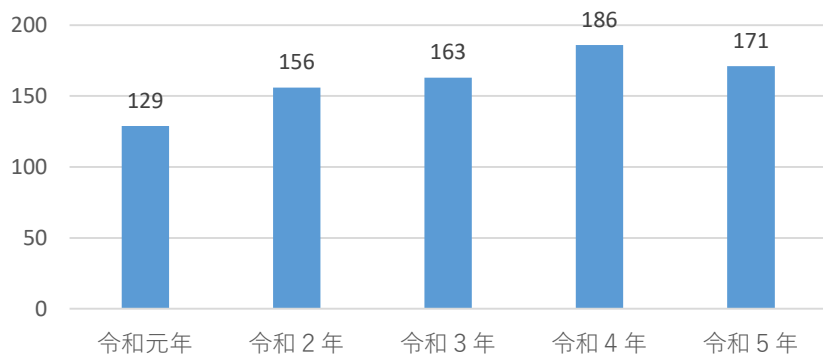


(人) 中学校 特別支援学級児童数

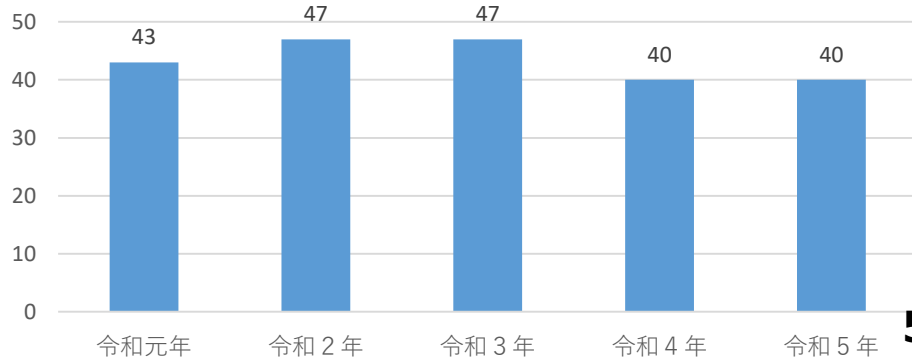


## <通級指導教室>

難聴・言語通級指導教室 通級児童数



発達・情緒通級指導教室 通級児童数



# 特別支援学級・通級指導教室の設置状況

## 特別支援学級＜知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級＞

学校名	知的障害 特別支援学級	自閉症・情緒障害 特別支援学級	学校名	知的障害 特別支援学級	自閉症・情緒障害 特別支援学級
戸田第一小学校	○	○	新曾北小学校	○	○
戸田第二小学校	○	○	美女木小学校	○	○
新曾小学校	○	○	芦原小学校	令和7年度設置に向け準備中	
美谷本小学校	○	○	戸田中学校	○	○
笹目小学校	○	○	戸田東中学校	○	○
戸田東小学校	○	○	美笹中学校	○	○
戸田南小学校	○	○	喜沢中学校	○	○
喜沢小学校	○	○	新曾中学校	R6新設	○
笹目東小学校	○	○	笹目中学校	○	○

## 発達・情緒通級指導教室＜フレンドリールーム＞

学校名	通学区域
美谷本小学校	美谷本・笹目・笹目東・美女木・芦原
喜沢小学校	戸田第一・戸田第二・新曾・戸田東 戸田南・喜沢・新曾北
新曾中学校	市内中学校

## 難聴・言語通級指導教室＜ことばの教室＞

学校名	通学区域
新曾小学校	新曾・戸田南・新曾北
戸田東小学校	戸田第一・戸田第二・戸田東・喜沢
美女木小学校	美谷本・笹目・笹目東・美女木・芦原

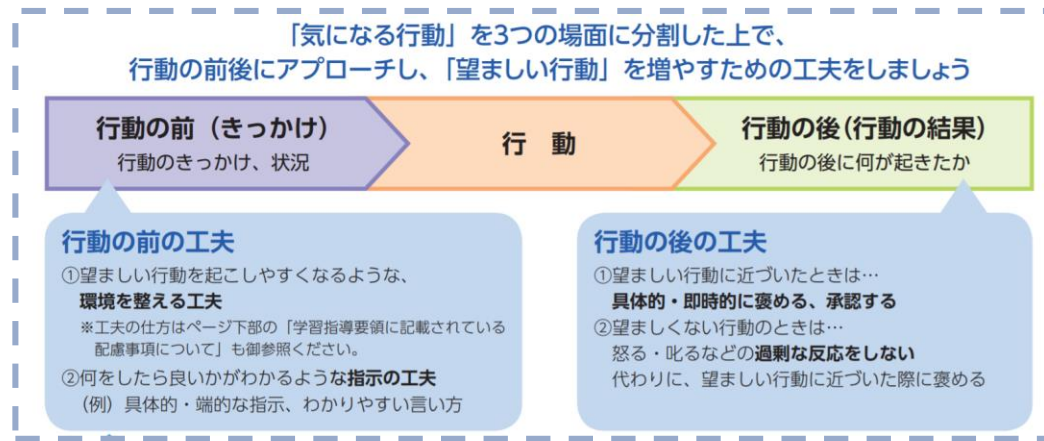
# 指導内容の充実①

## 学びやすい学級づくり

### ① 応用行動分析に基づく「気になる行動」を「望ましい行動」にするためのアプローチ

通常の学級も含めた全ての学級で活用する考え方。

市内校内研修や、学校訪問時の指導で活用している。



### ② 「学級の雰囲気チェックリスト」の活用

筑波大学の柘植研究室と研究協力を行い、発達障害のある児童生徒が適応しやすい学級の雰囲気のための条件を検討。

結果から作成された「学級の雰囲気チェックリスト」を全教員に周知し、日々の学級運営に活用を図っている。

学級の雰囲気チェックリスト

筑波大学 柘植雅義・岡部帆南

番号	場面	内容
■ 1	授業開始前	教室の整理整頓（本棚・ロッカー・児童生徒と先生の机など）ができています。
■ 2		机が真っ直ぐ揃っており、床に荷物やゴミが落ちていない。
■ 3		チャイムがなる前に、児童生徒も先生も授業の準備ができています。
■ 4	学級経営・授業運営	クラスのルールやマナー、授業内における発表の仕方、ノートの取り方などが確立されている。
■ 5		授業の進め方や本時の内容が明確である。
■ 6		授業内における話し合い活動や意見交換が活発である。ただし、メリハリがあるため、騒がしくない。
■ 7		課題が早く終わった児童生徒や時間を持て余している児童生徒、私語をしている児童生徒に対して、次の指示を出している。
■ 8		必要に応じて、板書に振り仮名を付けたり、ページ番号を書くなどの工夫をしている。
■ 9	やりとり 先生と児童生徒と	児童生徒が自分の意見や感想をノートに書いているタイミングで、先生自身の仕事や作業を行わず、児童生徒の表情や姿勢を確認している。
■ 10		「いいね!」「そうそう!」「OK!」などの肯定的な言葉掛けをしている。
■ 11		児童生徒と担任の先生の授業内におけるやり取りが多く、テンポが良い。
■ 12	やりとり 同士の児童生徒	物を落としてしまったり、作業についていけなかったりする友人のことを気に掛け、すばやく行動に移すことができる児童生徒が多い。
■ 13		誰かのふざげや失敗に対して、過剰に反応する児童生徒が少ない。

# 指導内容の充実②

## 民間企業との共同研究

民間教育事業者の専門的、科学的な知見を学校現場へ導入し、専門性の向上を図っている。  
研究結果については、市内教員に広く周知している。

### ◆子育て学習会（ペアレントトレーニング短縮版）の学校導入の共同研究

教員が保護者に向けて支援プログラムを実施することが、子供の行動変容、保護者の不安解消、教員の自己効力感の向上に有効→R1の特殊教育学会で発表済

### ◆「個別の学び支援システム」の開発・導入

個別の指導計画の質の向上・教員の計画作成の負担感の減少のため開発中  
→来年度全校で展開予定の「LITALICO教育ソフト」としてシステム化

### ◆スクールワイドPBS（ポジティブな行動支援）の学校導入に関する共同研究

ポジティブな行動支援（できている行動に着目して称賛することによって望ましい行動を増やし、問題行動を減少させる応用行動分析の一種）を学校に導入し、その効果を検証



# 本市で導入したペアレントトレーニング短縮版



○子供の発達促進や行動改善を目的とした保護者向けのプログラムで、子供への具体的な声かけや関わり方を学ぶもの。

○90分×3回のパッケージを導入

「ほめ上手になろう」「整え上手になろう」「伝え上手になろう」

○市内では「子どもが伸びる！子育て学習会」の名称で実施

○教員が校内で実施

# LITALICO教育ソフトの導入

□平成30年度から株式会社LITALICOと連携し、「個別の教育支援計画及び個別の指導計画作成支援システム」を開発してきた。エクセル版の実証を経て、令和6年度から全小・中学校においてアプリケーション版「LITALICO教育ソフト」を活用する。

システムは以下3点から成る。

□「まなびプラン」

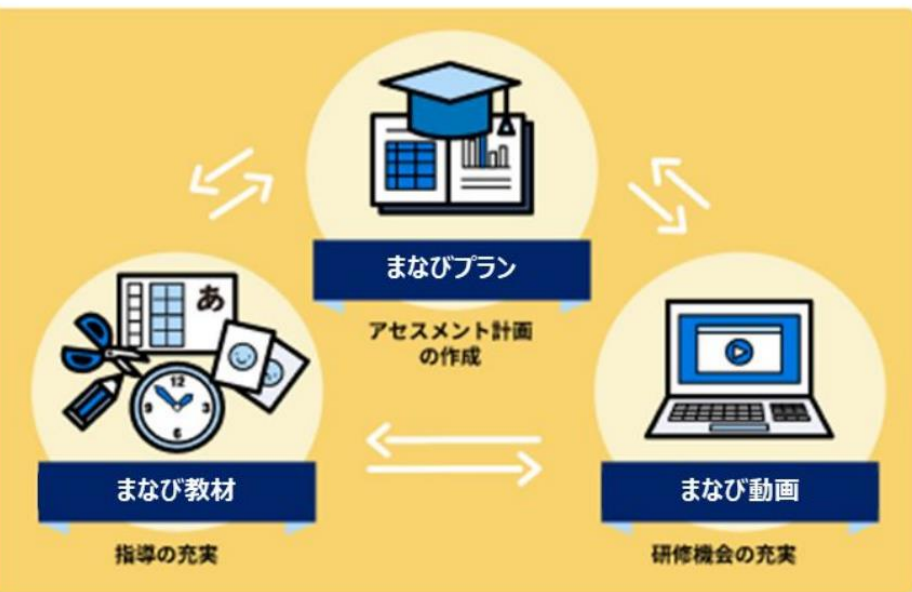
アセスメントに基づく「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成ができる

□「まなび教材」

授業で使える教材がWEB上に約13,000点掲載されている。まなびプランに紐付いており、アセスメント結果によるおすすめ教材を表示する機能あり

□「まなび動画」

校内研修等で活用可能な特別支援教育に関する研修動画



教師トップ画面

児童生徒トップ画面

アセスメント結果表示画面

アセスメント結果から計画の文例を選択することが可能

計画に紐づくおすすめ教材が一目でわかる

# PBS（＝ポジティブな行動支援）の学校導入に関する研究

## ○ポジティブな行動支援（Positive Behavior Support）とは？

- ・・・児童生徒の**望ましい行動を育てる支援方法**です！

### PBSの考え方のポイント

- ・何か問題が起きた後に支援するのではなく、**予防的な支援**であること。
- ・できていないことに着目するのではなく、**できていることに着目**すること。
- ・望ましくない行動を「罰則や叱責」で減らすのではなく、**望ましい行動を「称賛や承認」で増やし**、結果的に望ましくない行動を減らすこと。

## ○取組の流れ

**望ましい行動（3つの大切）を定義し、**  
どの目標から取り組むかを決定する

### 支援計画を作成する

- ・どのように児童生徒に指導するか
- ・望ましい行動が起きた時、どのようにほめるか
- ・児童生徒の行動をどのように記録をとるか

### 計画を実行

**行動の記録を取り、計画の振り返りを行う**  
成果が出たら次の目標の設定へ

## ○期待できる効果は？

- ・教員の怒る回数が減り、称賛する回数が増える
- ・児童生徒が自信をもって行動に取り組める
- ・問題行動を予防できる

・・・など

**PBSを導入することで、教員も児童生徒も笑顔でいる学級づくりが期待できます**



# 指導内容の充実③

## ツールの活用

「読む力」や「見る力」に困難さがある子供について、科学的な知見に基づくアセスメントを活用し、効果的な指導が行えるよう「**多層指導モデルMIM**」や「**ビジョン・アセスメントWAVES**」の教材を導入している。

導入時は開発者を講師に招き、活用のための研修を行った。

### 全体から個へ 効果的な3層構造の指導体系

#### 1stステージ 通常の学級内での効果的な指導

- ・全児童に対して、朝学習等の隙間時間に特殊音節を使ったあそびなどを取り入れる。

#### 2ndステージ 通常の学級内での補足的な指導

- ・説明は学級全体の児童に対して行うが、その後の個別学習については、個別支援を必要とする児童を重点的に指導する。

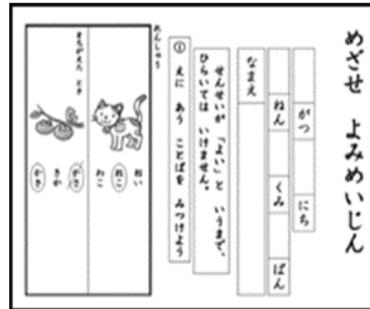
#### 3rdステージ 補足的、集中的、柔軟な形態による特化した指導

- ・1stステージ、2ndステージでは、伸びが乏しい児童に対して指導を行う。

アセスメントと指導のサイクルを回すことによって、指導効果が高まる。

### 子供の伸びを捉えるアセスメント (めざせ よみめいじん)

- ・月に1回程度実施する。
  - ・テストは2種類行う。
  - ・通常の学級で一斉に行う。
  - ・各テストは1分ずつで実施。  
(説明、配布、回収で約10分)
- 定期的、継続的に実施することで子供の伸びについて把握することができる。



「見る力」を育てるビジョン・アセスメント



一斉指導

個別支援



# 「多層的な支援」 RTI (Response To Intervention) モデル

## 多層支援の考え方のポイント

- 1層支援を充実させることで、相対的に第2層・第3層支援の児童生徒が少なくなります。  
「この子、個別支援が必要だと思っていたけど、1層支援を充実させたら追加の支援が不要なくなった！」という感想が出たこともあります。
- 第2・3層支援の児童生徒へより個別な支援が可能になります。
- この子は第1層、この子は第2層・・・と決めるものではありません。「勉強は1層支援で理解できるが、行動面は2層の支援が必要」であったり、「1学期は3層の支援が必要だったが、2学期は2層の支援で理解できている」といったように、活動内容や成長段階によってどこに位置するかは変わります。

## 学習面

## 多層的な支援システム

## 行動面

学級全体へのわかりやすい授業  
授業のユニバーサルデザイン化

居心地のよい学級作り  
安定した仲間関係  
肯定的な声掛け、支援

第1層支援 = 全体への支援  
学校・学級全体を対象としたユニバーサルな支援

全体の80%

第1層支援より頻繁な目標の教示  
机間指導時に到達度を確認、ヒント提示

第2層支援 = 一部への支援  
1層支援だけでは活動が難しい、  
配慮が必要な一部の児童生徒に対する支援

個別の声掛け、支援策の検討  
意識的に個別の称賛

個別の目標・課題設定

第3層支援 = 個別の支援 全体の1~5%  
特別な支援を必要とする個人に対する個別的支援

個別の目標・課題設定

# RTI (Response To Intervention) ミーティングの実践

## 多層的な支援システム (RTIモデル) の考え方のポイント

- 全体 (= 第1層支援) に効果的な指導、支援を行いながら、データをもとに児童生徒の**反応をつかみ**、効果が見られるよう**支援方法や指導方法を変えていく**こと。
- 集団から個へと**階層的なアプローチ** (第1層→第2層→第3層支援) をすることで、対象を絞り込んでいくこと。

### □ それぞれの層に対し、効果的な指導・支援方法を検討し、実施

- 指導の個別化を意識し、一人一人の特性や学習進度に応じた指導方法、教材を取り入れる。

- 行動面では気にならなくても、単元テストの経過を見て全体的に理解がゆっくりな児童生徒を抽出する。
- 特定の項目だけ著しく点数が低い児童生徒を抽出する。  
(例) 漢字の書き取り、計算



### □ 単元テストなど定量的なデータや、行動面など定性的なデータをもとに、現在の支援が当該学級にとって有用かどうか検討

- 単元の点数が全体的に低い場合、全体へわかりやすい説明やユニバーサルデザインを取り入れた授業だったか振り返る。
- 単元の理解度が全体的に高い場合、どのような指導方法が効果的であったか振り返る

### □ データをもとに、第2層・3層の支援が必要な児童生徒を抽出

# ケース会議の重要性

かつてどの学校でもよく行われていた、一人の子供を全教師で見つめ抜く「ケース会議」を改めて重視すべきではないか。またその際、教育データを積極的に利活用していくべきではないか。

【市内の小学校の取組】

## 05. 学びの改革

### RTI (Response to Intervention)

- 教育データの利活用
- RTIミーティング
- 1層支援の検証・改善（全体）
- 2・3層支援（少人数・個別）

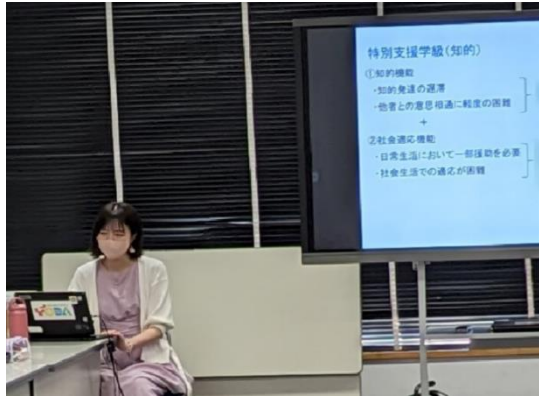
児童が指導や支援に対してどれだけ反応したかを測定し、その結果を根拠として追加の支援や指導法の見直しをスピード感をもって行っていくシステム



# 教員の専門性の向上①

## 教員研修の実施（一部例）

### 特別支援教育コーディネーター研修会



特別支援学級(知的)

- ①知的機能
  - 知的発達の違い
  - 物事との意思相通に困難の困難
- ②社会適応機能
  - 日常生活において一部援助を必要
  - 社会生活での適応が困難

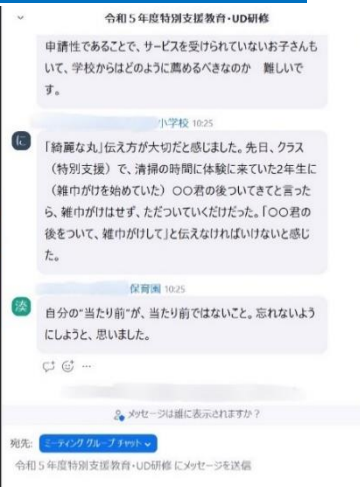
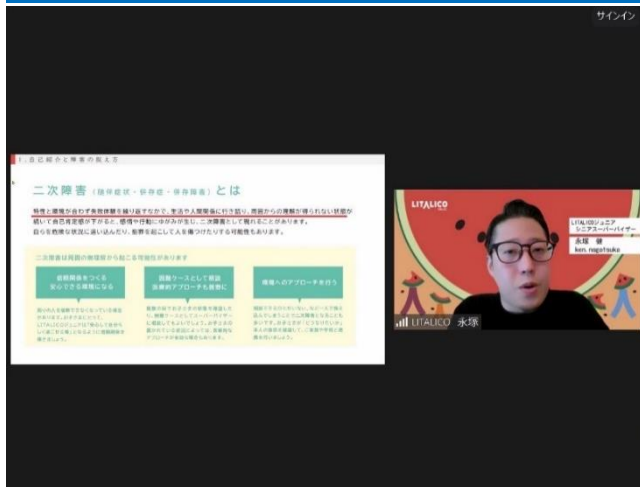
#### 観察ポイント

- ①不注意  
掲示物の文章／個別指導中の様子／答案用紙
- ②多動性  
常同行動との違い  
教室における“刺激に反応しやすい様子”
- ③衝動性  
こだわりによる衝動性との違い

特別支援教育コーディネーター（※）を対象に、年3回実施  
内容はその時の課題や時期によって必要な事柄について取り上げている。

※「特別支援教育コーディネーター」・・・各学校において、特別支援教育のコーディネーター的な役割を担う教員。校長が指名し、校務分掌に位置づけられている。

### 幼保小中連携特別支援教育・UD研修会



市内小・中学校教員、幼稚園教諭、保育士、市役所関係課を対象に夏季休業期間に実施  
特別支援教育に関する基礎的な内容から、具体的な支援策まで取り上げている。



# 教員の専門性の向上②

## 教員研修の実施（一部例）

### ペアレントトレーニング指導者養成研修会

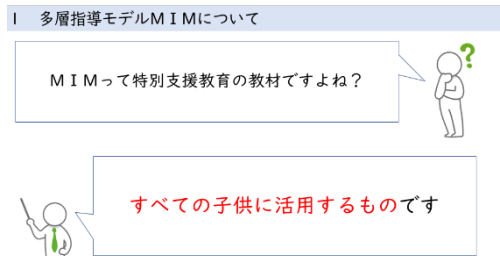


希望する教員を対象に夏季休業期間に実施  
民間企業と連携した「子育て学習会」を実施できるためのペアレントトレーニングのスキルについて研修している。

### 校内研修のサポート



戸田市教育委員会



市内小・中学校の校内研修で特別支援教育やインクルーシブ教育に係る内容について指導主事が訪問し研修のサポートを行っている。

# 教員の専門性の向上③

## 専門性のある人材の活用

職名	職務内容	担当する者 ( ) 内はR5委嘱者
特別支援教育アドバイザー (2名)	特別支援学級や発達・情緒通級 指導教室の訪問指導	特別支援教育の知識と経験が豊富な者 (特別支援学級や発達・情緒通級指導教室の経験が ある者、発達障害を専門とする民間教育事業者)
就学支援アドバイザー (1名)	障害のある児童生徒の 望ましい教育的対応について 指導、助言	発達障害を含む障害のある児童生徒の支援に関わ る専門的な知識・技能を持つ者 (心理士)
心の教育アドバイザー (1名)	就学に関わる教育相談、学校、 保護者・未就学児、幼稚園・保 育園との連携、助言	教育相談の知識と経験が豊かな者 (学校心理士の資格を有する校長経験者)
発達専門医 (3名)	発達障害に係る相談、診断	発達障害、神経疾患等を専門とする医師 (獨協医科大学埼玉医療センターの医師)
巡回相談員 (5名)	学校からの要請に応じて、児童 生徒に対する実態把握及び指 導・助言	発達障害に専門的な知見を持つ者 (大学教授、心理士)
特別支援教育推進専門員 (3名)	特別支援学級、通級指導教室 担当教員の指導・育成	特別支援教育において専門的な知識・経験を 有する者 ※埼玉県の事業

# 関係機関との連携

## 就学相談体制の充実

年長児の4月から就学相談を実施し、幼稚園や保育園での行動観察や、保護者との面談を行い、保護者との合意形成のもと就学先の決定を行っている。

### 戸田市 就学相談の流れ

#### 1 就学に関する個別相談（本案内）

保護者との面談、お子さんの個別の御様子を観察します。保護者には現在の御意向やお悩みなどをお伺いします。

#### 2 集団観察

お子さんのお通いの保育園や幼稚園を訪問し、集団での御様子を観察します。

以下は、必要に応じて実施します。

#### 3 発達検査

お子さんの得意・不得意を客観的に把握し、今後の支援につなげるため、発達検査を実施します。実施する検査内容はお子さんによって異なります。

#### 4 見学・体験

市内特別支援学級や埼玉県立特別支援学校の見学や体験を御案内します。

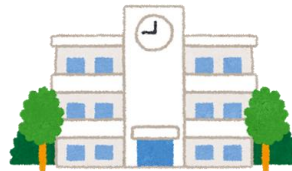
#### 5 就学支援委員会で協議

就学支援委員会は、医療や福祉の専門性を持つ者や、特別支援教育に知見のある者、市内各小・中学校の教員の代表らで構成されます。相談の内容やお子さんの観察を基に、どういった「学びの場」がお子さんにとって望ましいか、話し合いをします。

#### 6 就学先決定

就学支援委員会で話し合われた提案を基に、就学先をお考えいただけます。就学先は保護者の同意の上で決定します。  
(埼玉県立特別支援学校への就学を希望される場合は10月中、市内特別支援学級への就学を希望される場合は1月中旬を目処にお手続きが必要になります。)

※お子さんの状況、保護者の御意向によって流れは異なります。詳しくは個別相談の際に御説明いたします。



### 特別支援学校

- ・少人数の学級(6人の児童につき1名の教員)で学習します。
- ・特別支援学校の学習指導要領に基づき指導・評価します。

### POINT

就学先は一度決めたら卒業まで一緒、というわけではありません。子供の実態によって、教育形態を変更することが可能です。

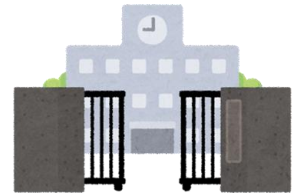


### 支援籍学習の実施

### 特別支援学級



- ・少人数の学級(8人の児童につき1名の教員)で学習します。
- ・通常学級の学習指導要領に基づきますが、一部特別支援学校の学習指導要領に基づきます。



### 通常の学級



- ・35人程度の学級で学習します。
- ・通常学校の学習指導要領に基づき指導・評価します。



通常学級に在籍しながら、一部を通級指導教室で学びます。

### 通級による指導

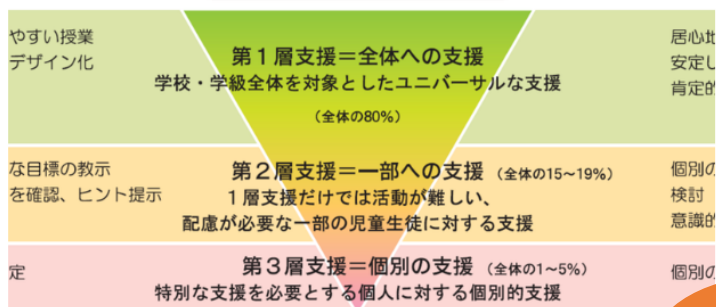
### 支援籍学習の実施

# 「特別でない特別支援教育」についての周知・啓発

市教委公式noteにおいて、市教委の指導主事や学校現場の思いを綴り、発信しているところ。

## ①市教委の施策紹介

### 多層的な支援システム



詳細は  
こちら

## 戸田市が目指す「特別でない特別支援教育」とは？

♥ 131

戸田市教育委員会note  
2023年7月12日 17:56



戸田市教育委員会教育センター指導主事の藤本と申します。民間教育企業に勤めた後、戸田市が独自に行っていた「教育行政プロ」枠で入庁し、特別支援教育の推進やインクルーシブ教育システムの構築を担当して6年目になります。

今回は、戸田市が進めている「特別でない特別支援教育」やインクルーシブ教育についてお伝えします。

## ②先進校の実践紹介



詳細は  
こちら

## 多層型支援ですべての児童が「学校生活 が楽しい」「学びが楽しい」と言える学 校に！！（喜沢小学校）

♥ 22

戸田市教育委員会note  
2023年12月27日 10:07



このコーナーでは、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングによる「戸田市未来の学び応援プロジェクト」について、夢のある提案を出された各学校からのメッセージを掲載しています。

第7回は、産官学と連携した多層型支援システムの構築により、全ての児童が「学校生活が楽しい」「学びが楽しい」と言える学校を目指す、喜沢小学校です！

# R4、R5 戸田市指導の重点・主な施策より

## インクルーシブ教育の充実に向けて ～多様な子供たちがいることを前提とした支援のために～



通常学級にも、多様なニーズのある  
児童生徒がいます

- 認知特性
- 不登校傾向
- 発達障害
- 文化や言語
- ギフテッド
- 家庭環境

「誰一人取り残すことのない」学びのためには、多様な子供を想定した  
第1層支援（学校・学級全体を対象とした支援）の充実が大前提



第1層支援で支援できる幅を広げることで、個別支援を必要とする第2層・3層の子供への適切な支援がさらに可能になります。



## 第1層支援の充実のための振り返りポイント

### ①学級雰囲気は整っていますか？

誰もが学びやすい環境づくりのためには、学級雰囲気を整えることが最重要となる。環境調整や他者を尊重する雰囲気づくりなど、学習環境が整っているか確認する。



### ②多様な学び方が用意されていますか？

学習に参加しやすい方法・表現の方法・理解の方法は、一人一人得意なやり方が異なる。あらかじめ複数の選択肢を準備することで、子供が自分にあったやり方を選択できるようにする。教師の支援の幅を広げることにもつながる。



- (例) 覚えるとき
- 書いて覚える
  - 絵と結びつけて覚える
  - 動画で覚える

一人一人得意な学び方はちがう

- (例) 考えるとき
- 絵で表現する
  - 文章で表現する
  - 映像で表現する

### ③支援が適切だったか、振り返りができていますか？

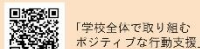
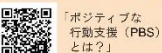
適宜、支援の工夫について振り返るようにすることが大切。ポイントは、「その子供が学びに向かえたか」「理解が深められたか」である。「支援をしたはずなのに、うまくいかなかった」と思う場合は、上記①②を再度確認するとともに、別の支援策を検討する必要がある。

学校全体の仕組みづくりや教材を用いて更なる第1層支援の充実を図りましょう

### 学校生活 学校・学級全体で取り組む ポジティブな行動支援

- (例)
- 学校全体で望ましい行動を具体的に設定する。
  - 望ましい行動のモデルを教師と子供で共有する。
  - 具体的な支援計画を立てて実行し、数を記録する。
  - 学校・学級の取組の成果を掲示し、可視化する。
  - 成果に応じて行動の前後を修正する。

令和3年度 指導の重点・主な施策



### 学習 多層指導モデルMIM

- (例)
- 低学年の全学級が毎月「めざせ よみめいじん(アセスメント)」に取り組み、クラスのみならず傾向を捉えながら指導する。
  - デジタル版のMIMで、一人一人のつますきに応じた学習に取り組む。
  - 3rdステージの子供の支援体制を校内で検討する。

令和元年度 指導の重点・主な施策

「多層指導モデルMIMを用いた読みの流暢性の育成」



## 多様な教育的ニーズへの対応

～「多層的な支援」の実現に向けて～

様々なニーズのある子供たちを対象としたとき、こんなことはありませんか？



Aさんは理解がゆっくりに、  
Bさんは集中が続くことが難しい、  
Cさんは…

最初から全ての  
ニーズへの対応を考える  
ことは難しい！



多層的な支援システムを意識した「第1層支援」の充実を図りましょう！

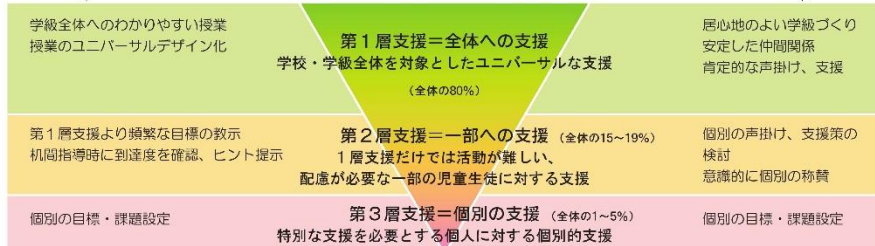
- 第1層支援を充実させることで、相対的に第2層・第3層支援の児童生徒が少なくなります。「この子、個別支援が必要だと思っていたけど、1層支援を充実させたら追加の支援が必要なくなった！」という声が出たこともあります。
- 第1層支援を充実させることで、第2・3層支援の児童生徒へより個別的な支援が可能になります。
- この子は第1層、この子は第2層・・・と決めるものではありません。「勉強は第1層支援で理解できるが、行動面は第2層の支援が必要」であったり、「1学期は第3層の支援が必要だったが、2学期は第2層の支援で理解できている」といったように、活動内容や成長段階によってどこに位置するかは変わります。



### 学習面

### 多層的な支援システム

### 行動面

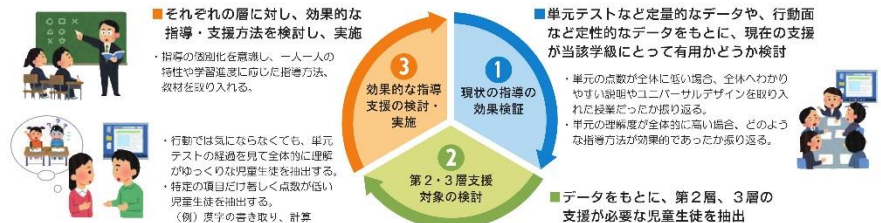


## 「多層的な支援」(RTI: Response To Intervention) モデル

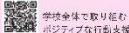
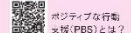
### 多層的な支援システム (RTIモデル) の考え方のポイント

- 全体(＝第1層支援)に効果的な指導、支援を行いながら、データをもとに児童生徒の反応をつかみ、効果が見られるよう支援方法や指導方法を変えていくこと。
- 集団から個へと階層的なアプローチ(第1層→第2層→第3層支援)を繰り返すことで、対象を絞り込んでいくこと。

## 【実践例】RTI ミーティング(データに基づくケース会議)の実施



行動面の「多層的な支援」の例にはPBS(Positive Behavior Support)があげられます。PBSについては、令和3年度指導の重点・主な施策を御参照ください。

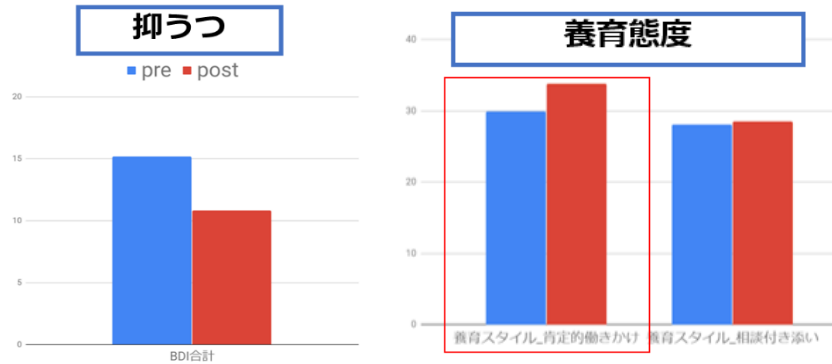


# これまでの検証結果①

## ペアレントトレーニング

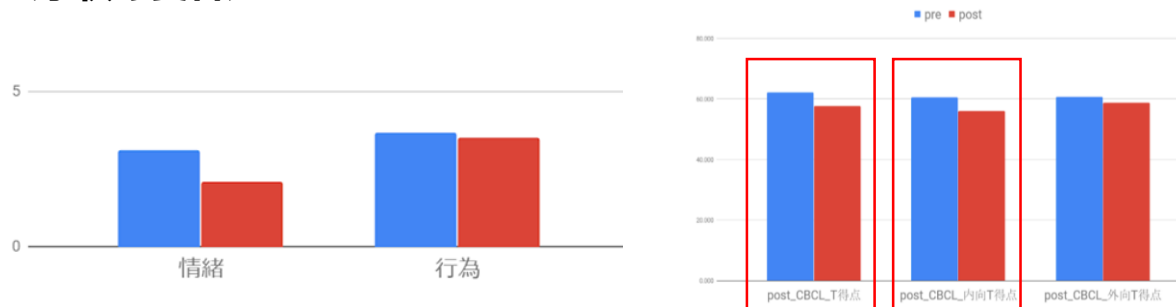
実施保護者、教員を対象に事前事後アンケートを実施

### <保護者の変容>



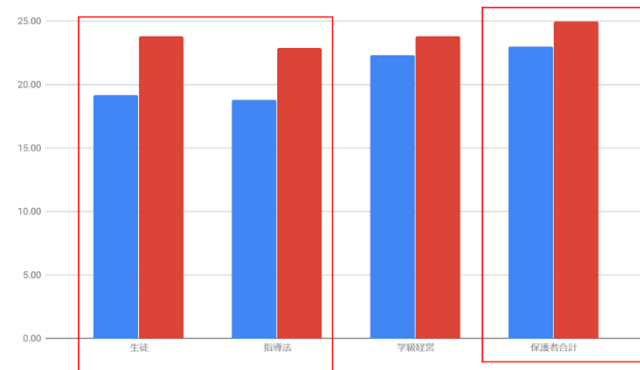
- ・保護者の抑うつ得点が有意に低下
- ・保護者の肯定的働きかけが有意に上昇

### <子供の変容>



- ・情緒因子の得点が有意に低下  
(子どもの「不安」「落ち込み」「自信のなさ」など)

### <教員の変容>



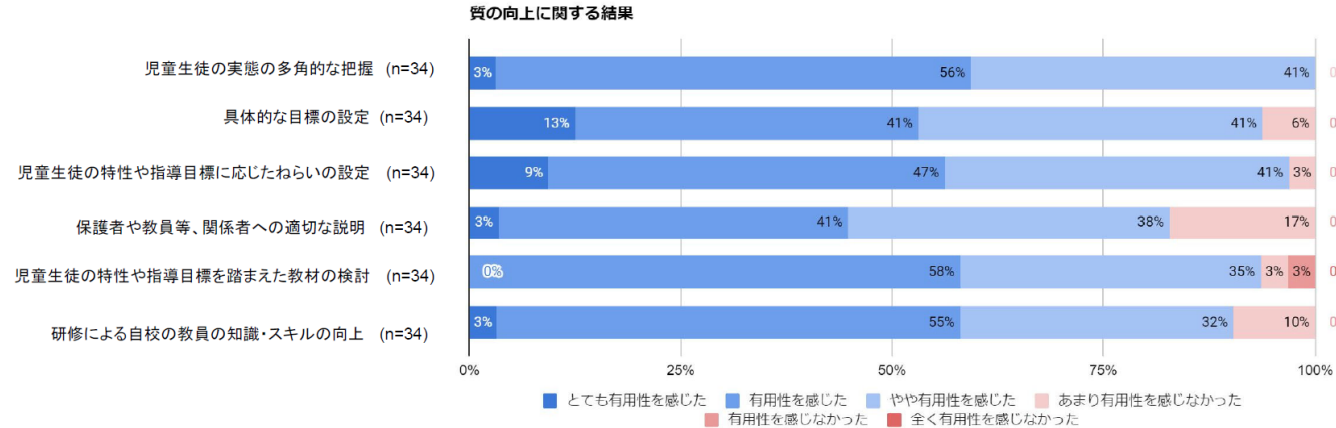
- ・生徒エンゲージメントに関する自己効力感、および指導法に関する自己効力感が有意に上昇  
※生徒エンゲージメント=動機づけ、「できる」ための働きかけなど  
※指導方法=多様な実態把握、新しい指導方法、工夫した発問など

- ・総合得点および内向得点が有意に低下 (内向: ひきこもり 身体的訴え、不安/抑うつ)
- ・総合T得点が臨床域に位置する人数は、PT受講前は19名中10名、  
受講後は10名のうち4名が臨床域を外れた

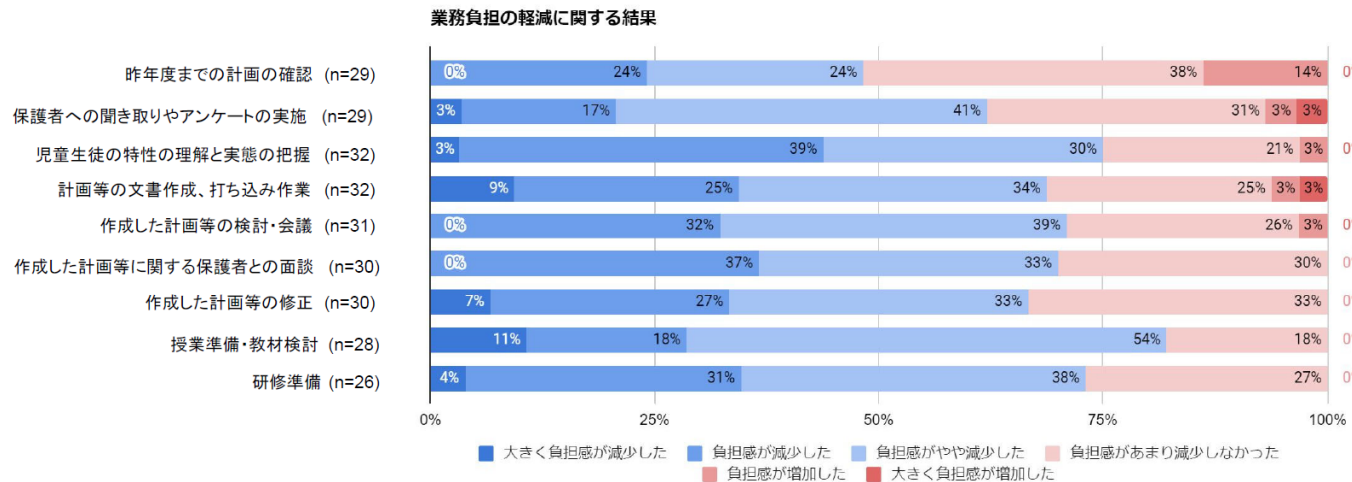
# これまでの検証結果②

## 教育ソフト

### 使用した教員にアンケートを実施



・特に、「児童生徒の実態の多角的な把握」、「特性や指導目標に応じたねらい・教材の設定」において有用性が感じられた。



・特に、「児童生徒の特性理解」、「計画の文書作成・打ち込み作業」、「授業準備・教材検討」において負担感が減少した。

# 今後に向けて

- ▶ 学びの場をより「グラデーションのように連続性のあるもの」にしていくこと
- ▶ 効果的な実践を、日々の学級経営や教科指導など市内全校の教育活動の幅広い分野において活かしていくこと
- ▶ 「学びの場を分けるか、分けないか」の議論ではなく、「すべての子供たちの教育的ニーズに即した教育が提供されているか」、「本人がその場での学びを楽しいと実感できているか」を問い続けること